

シクロクロス TOKYO2013 レースレポート

パナソニックレディース 豊岡英子



日時 2013年2月10日

場所 お台場海浜公園

天候 晴れ

結果 優勝





とにかく、日本で1番規模の大きなシクロクロスの大会であろう。延べ人数1万3000人が、来場したというほどである。

1周およそ1.5kmのコースには、砂地・森林・舗装路のパートがあるが、もっとも長く続くのが柔らかい砂のビーチ。そしてホームストレートに戻ってくる、というコースレイアウト。

欧米遠征より3日前に帰国。タイトなスケジュールで、決して、体調は万全では無かった。前日は、頭も身体も重く試走中には、突然鼻血が止まらなくなる程であった。試走は2周で止める。ホテルに帰っても身体の調子は良くなく、ずっと寝ていた。夕食もろくに食べれず就寝。

レース当日の朝、ご飯を山盛り食べれた。朝8時半に会場入りし、ランニングで体を整えてからローラーを軽く回す。10時20分から試走開始。

やはり、前日のレースで砂はフカフカになっていた。しかし、やらねばならぬ一番、集中に集中を重ねる。とんでもなく重い頭と、身体を無理やり起こす。アップ完了し、スタート地点へ。

スタートに並ぶと、時間が5分遅れてスタートすると聞かされる。今年から、パナソニックレディース新加入の坂口選手と雑談する。

改めてスタートし、砂区間突入。すでに、後続とは何秒か離れた。そのまま森区間を終え、長い砂浜へ突入。私は他の選手より乗車区間が長い、そして自信もあったので、後ろを振り返る事なく走れた。

後ろに福本選手が10秒と聞こえた。しかし焦る事なく2周回目に突入する。そして、15秒以上開いたと聞く。

長い砂浜を折り返すと、潮の満ち引きで通れていたラインが、通れなくなっていたので、ラインを変えた。

だから要するに、そこで一気に差が開いた。

こうなると自分もしんどいが、もはや後ろの事は気にせず前だけを見て走る。ホームストレートに戻ると、あと 5 周回と出ていたので驚いたが、みんな条件は同じなのだから、とにかく集中力を切らさず走るのみ。

砂区間は、一本ラインを間違えると、前輪を取られたり、ハンドルを取られたり、制御不可能になるので、特に精神を集中させ走る。ミスなく走る。砂浜では海水に入りながら走ったので、それからは毎周回自転車を交換する。ラスト 2 周に入った所で両足が攣りそうになる。おそらく、思った以上の気温の上昇で、体の水分が失われ脱水症状になっていたのであろう。

攣る寸前で、踏み込まないようにコントロールする。レース中に脚が攣る事は、実は初体験。とにかく止める事は許されないので、心の中で「身体よ、止まらないで」と念じて走る。

ラスト周回、足が全然上がらなくなっていったが、我慢してゴールラインへと走る。自転車のトラブルもなく無事に 1 位でゴールラインを駆け抜けることができた。嬉しかったが安堵感以外の何物でもなかった。

応援ありがとうございました。

使用機材

自転車	パナソニック
ヘルメット	OGK KABUTO
ステム	dixna
ハンドル	onebyesu
フォーク	onebyesu
バーテープ	dixna
サングラス	adidas eye wear
ウェア	パールイズミ
タイヤ	challenge
サドル	fizi:k
遠征バック	deuter
チェーンオイル	Holmenkol
インソール	SIDAS
コンプレッション	2 X U

